
お題「リップクリーム」

宇野直人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お題「リップクリーム」

【Nコード】

N2779Q

【作者名】

宇野直人

【あらすじ】

あらすじがないんだよ

チャイムが鳴り、学級委員が「きりーつれい」と号令の合図をかけ頭が上がったのとほぼ同時に、男子が滑るように教室を走り抜けていく。

お昼休みに入った。

この時間はいつもよりきつかったと感じた。英語の教師がぶつぶつとつぶやく言葉がまるで現代に残っている魔法のようで、あれよあれよという間に船をこぎだし一部の生徒は開始五分と経たずとして机に沈没する。おまけにお腹の虫は暴れだすし、最近は季節の変わりめということもあって教室は足が震えるほど寒い。

ぐつと腕を伸ばし、息を吐く。昼休みの喧騒をよそに、僕は弁当を取り出しフタを開けた。

「最近寒くなってきたよねえ」

玉子焼きに箸を伸ばそうとしたとき、彼女の声が聞こえてきた。

「唇も荒れてきてさあ、今朝に駅前のコンビニでリップ買ってきちゃった」

僕はちらりと横目をやり、右斜めうしろに座る彼女に目をやった。へえそうなんだあとクラスメイトは相槌をうち、席をくつつけて弁当を食べている。

自然と盗み聞きをしてしまう。今日もいつもと同じ弁当箱だ。僕の弁当箱はご飯とおかずの二段重ねだが、彼女の弁当箱は小さくてご飯とおかずがいつペンに入っている。決まって入っているのは卵焼きとミニハンバーグとプチトマトだ。弁当箱の色は彼女の可愛らしさが分かるピンクで決めている。

視線を自分の弁当箱に向け直す。聞き耳を立てながら黙々と箸を進めるのに自然と集中する。でね昨日犬の散歩してたんだけどねもう寒くってさあお兄ちゃんは彼女いるみたいだよあはは??

ご飯を食べ終え僕は机に突っ伏し、寝たふりをする。見ているこ

とがバレないように机と腕のすきまから彼女を盗み見ていた。どうやら向こうも食べ終えたようで、席を離しひとり弁当箱を片付けている。

片付け終わると、彼女は小物袋からスティック状のリップクリームを取り出した。

そして、彼女はまるで大人の女性が口紅を塗るように、しかしそこにはあどけなさが残った何でもな様な表情で、リップクリームを塗りつけていた。クリームが唇全体になじむように、「ん」と「ば」の発音を練習するように唇を動かしている。

その姿に僕は何だかそわそわしてしまった。そして教室には昼休みの終わりをつげるチャイムが鳴り響いた。

（後書き）

好きな女の子の何気ない動作が好きだったりする。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2779q/>

お題「リップクリーム」

2011年1月26日04時43分発行